

天皇と国民の関わり方の変遷

鈴木 理音、高橋遥希、奈良昂弥（山形東高等学校）

○導入（目的、仮説、着目点）

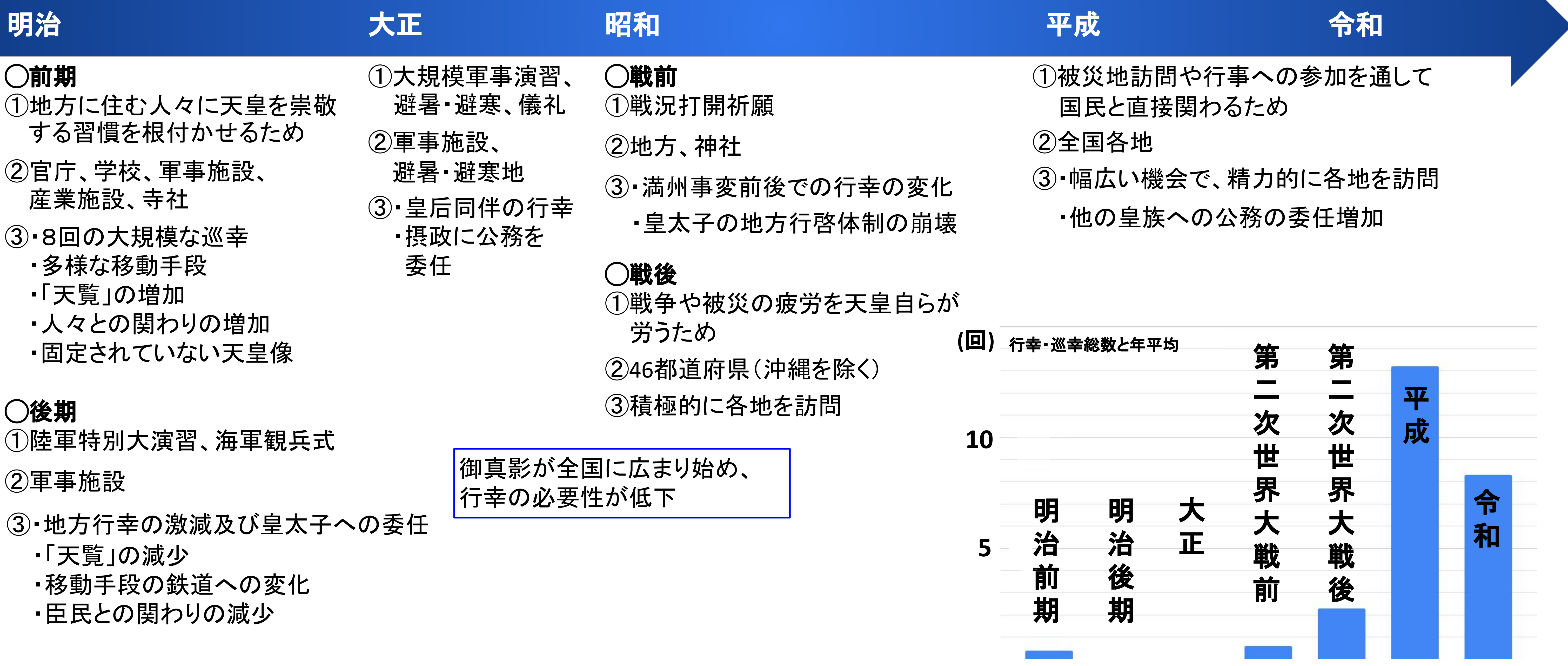
目的・・・行幸・巡幸の変化を通して、時代による天皇と国民との関わりの変化を歴史的背景も踏まえて探り、皇室や今後の日本について考察するため。

仮説・・・「明治六大巡幸」が「戦後巡幸」と酷似しているのは**大日本帝国憲法が関係しているのではないか。**

着目点・・・近代以降の天皇が在位中に行った地方行幸に焦点を当て、地方行幸数の増減やその内容の変遷に注目する。

○探究結果

①目的 ②訪問先 ③その他の特徴



○考察

【仮説に対する考察】

「大日本帝国憲法が行幸に大きな影響を及ぼした」という仮説は、行幸に大きな変化を与えたという点では肯定できる。一方、明治六大巡幸と戦後巡幸が酷似していたことを説明する原因としては不足。

酷似の原因として新たに考えられるもの

- ①明治後期・大正において地方訪問の役割が皇太子のものに変化したこと
- ②大日本帝国憲法により天皇の地位が厳格に規定されたこと
- ③御真影の広まりにより行幸の必要性が薄れたこと

・明治後期・大正に地方巡幸が行われなくなった要因
・昭和前期の地方行幸復活の要因

戦前の新たな天皇像を発見できる可能性大

【今後の皇室についての考察】

戦後、天皇と国民が関わる機会は大きく増加し、天皇以外の皇族による地方行啓も増加した ⇒ **皇室と国民の距離が縮まった**
⇒インターネットの普及による、意見の発信の自由化、急速な情報の拡大 ⇒ **国民の声が国の方針に大きな力を持ちつつある**

過去、日本では「御真影」や「教育勅語」を用いて、「不動」で「絶対的なもの」として天皇の地位が確立された
＝教育の力は大きい⇒**国単位で今後さらに天皇や皇室についての歴史の教育を行う**

○参考文献

皇室事典編集委員会「皇室事典令和版」,角川書店,2019年11月

米田雄介/井筒清次「天皇史年表」,河出書房新社,2019年6月

原武史「可視化された帝国」,みすず書房,2001年7月

宮内庁「<https://www.kunaicho.go.jp/joko/pages/about/gokomu/odemashi/odemashi01-map.html>」2025年2月6日

NHK「<https://www3.nhk.or.jp/news/special/japans-emperor6/articles/?anchorID=prince>」2025年2月11日